

「数字」のチカラ

Numbers work as an identity

チャーオ、シーナです。●お酒に限らず様々な商品で、「数」をアイキャッチとして表示した商品があります。お酒の場合その数字は、「貯蔵年数、精米度合い、アルコール度数、記念の年、蔵元何代目、独自のネーミング、…」などなど。●海外では Sake の「精米度合い」を「アルコール度数」と勘違いする、なんていうトラブルもあったりするそうですが、数字を使った商品はわかりやすいし、覚えやすいですね。●食品や書籍でも、「時間、比率、栄養分の含有量、開発番号、…」などなど、数字を引用した名称は多い。●今回は「数」「数字」が、その商品のアイキャッチ、アイデンティティ、重要なセールスポイントになっている商品を集めてみました。

(pictures = Sienna K. Emiri)



実物を撮影した写真と、ネットやカタログなどから取り込んだ画像で構成しています。日本で販売されていない国産商品、海外で販売されている商品を含みます。



シーナの私的考察

「坂本九」(9、「上を向いて歩こう」の歌手)、「小林一三」(13、阪急電鉄創業者)、「山本五十六」(56、海軍軍人、戦前最後の国葬だった)など、人の名前にも「数」があります。昔の人ばかりでなく、現在活躍されている方でも、「藪中三十二」(32、元外交官、いまはコメンテーターなど)、「加藤一二三」(123、将棋棋士、今年2022年の文化功労者)など。「一」(1、はじめ)や「千」(1,000、せん)という名前もありますね。生まれた子供に数の名前を付けた親は、どういう思いでその数字を選ばれたのでしょうか。。。でも、数字は印象的で覚えやすいのは確かです。

自動車では、日本はカローラ、ノート、シビックなど固有名詞の名前が多いですが、例えばフランスのプジョーは 208、308、508 など、伝統的に数字だけのネーミング。小型から大型まで末尾の数字が統一されていて、モデルが進化すると、数字が増えます。例えば小型車は、1960-70 年代は 204 でしたが、その後、205、206、207 と進化して、現在は 208 になっています。ポルシェ、ボルボ、BMW も、かつては数字だけのラインナップでした。

コンビニエンスストアの「7-ELEVEN」は、今の日本では 24 時間営業ですが、アメリカで創業した時は「朝 7 時から夜 11 時まであいている便利なお店」で、開店・閉店時刻が名前の由来です。

日本では、イチキュッパとかサンキュッパとか「98」で終わる価格が好まれますが、アメリカのスーパーに行くと、見事にxxドル「99」セントの値札ばかり（たまに「49」セントとか「79」セントもあります）。なじみの数字は、購買動機につながるのですね。数には、奥深いものがあります。（text = Sienna K. Emiri）

(LA の酒類スーパー「BevMo!」にて / 2neo)